

「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」

平成24年度 第1回 懇談会資料

平成24年 7月 2日

石 巻 市

「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」の経緯

■計画策定の背景・目的

- 悠々とした流れを感じる旧北上川
- 近代日本開拓の息吹を感じる北北上運河(貞山運河)
- 潮風を感じ往来する船舶を眺められる雲雀野海岸
- 水運で栄えた石巻の顔、各所に点在する観光資源

しかし、これらが一体的なつながりを持たず資源が活用されていない

プロムナードによる水辺と拠点のネットワーク化

【計画の目的、期待する効果】

- ①市民や観光客が
気軽に水辺を楽しみながら歴史文化等を知る
- ②将来を担う子供たちに
旧北上川との関わりを学び知ってもらう
- ③人々の憩いと健康の増進
- ④中心市街地に賑わいを取り戻し、観光振興などを期待

■現計画の策定までの流れ

第一回懇談会 平成22年5月13日

良好な景観や史跡などのポイントを抽出・整理

第二回懇談会 平成22年8月18日

ポイントをつなぐプロムナードルートの検討

第三回懇談会 平成22年10月12日

ルートイメージの検討(イメージパスまたは断面)

懇談会案 市へ提言

計 画 案 OUTPUT

市民との双方向
の意見交換

町内会長との意見交換、シンポジウム

市民との意見交換(計画調整)

10月25日～11月5日
沿川住民との意見交換会

12月5日
シンポジウム開催

平成23年2月策定

懇談会(3回開催)

いしのまき水辺の緑の
プロムナード計画の
経緯

- ・プロムナード計画の具体化
- ・堤防整備に合わせまちづくりと一体となった整備



【計画の前提】

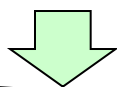
- 中心市街地を囲む水辺空間(雲雀野海岸～旧北上川～北上運河)を計画範囲とする
- 計画目標を概ね10年後とし、プロムナードイメージや断面についても10年後の姿をイメージ
- 気軽に水辺に親しむ計画のため、水上利用の検討は行わない
- 整備等の方向性を定めた計画(具体的な計画やスケジュールは無い)
- 計画に記載の整備・管理・利活用は、国・県・市・民間・NPOや市民団体・市民等を範囲とする

「いしのまき水辺の緑のpromenade計画」の経緯

■計画策定後の情勢の変化

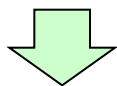
- ◆promenade計画策定の直後に『東日本大震災』が発生
- ◆沿岸域を中心に甚大な被害を受けたことから、災害復旧事業や復興に向けたまちづくりが始まっている。

H23年2月 「いしのまき水辺の緑のpromenade計画」策定



H23年3月11日 東日本大震災発生

・地震・津波により家屋・施設、史跡等が被災

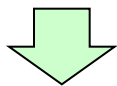


まちづくり(復興計画)

・復興に向けたまちづくり

・地震・津波・高潮に強い堤防を計画

H23年12月
石巻市震災復興基本計画策定



H24年2月
石巻市震災復興基本計画実施計画策定

河川海岸の堤防・護岸(災害復旧)

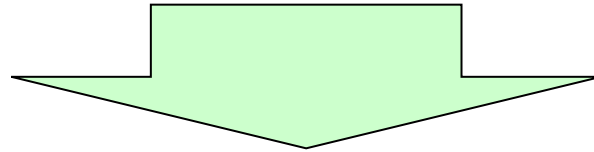
- ・災害を踏まえて旧北上川、北北上運河、防潮堤について津波や高潮を外力として堤防を整備
- ・旧北上川の堤防整備については、現在、住民説明会を開催中、今後本格的に事業開始

復興に向けた新たなまちづくりが始まっている

「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」の見直し

■東日本大震災により . . .

- ◆プロムナード計画における**拠点や周辺の施設、史跡等を含め、特に沿岸域・川沿いを中心にまちが壊滅的な被害を受けた。**
- ◆石巻市の復旧・復興に向けて、**まちづくり・土地利用が大きく見直される。**
- ◆津波によって沿岸域・川沿いが甚大な被害を受けたことから、**地震・津波・高潮に対して粘り強い堤防・護岸が集中的に整備される。**



■プロムナード計画の見直しの趣旨・目的 . . .

- 復興計画に基づく新たな拠点、活用できる観光資源、復興のまちづくり等を踏まえて、プロムナードのルート・拠点・利活用方策について見直しを図る。
- 災害復旧等により短期且つ集中的に整備される新たな堤防・護岸を活かし、背後のまちと水辺のつながりを生み出し、新たな魅力をもった「まち」を構成する要素の一つとして、プロムナードの具体的な内容を検討する。

- ・ **既存のプロムナード計画の骨格は継承する。**
- ・ **堤防整備を活かした復旧・復興のまちづくりを進めるプロムナード計画の一部見直し**